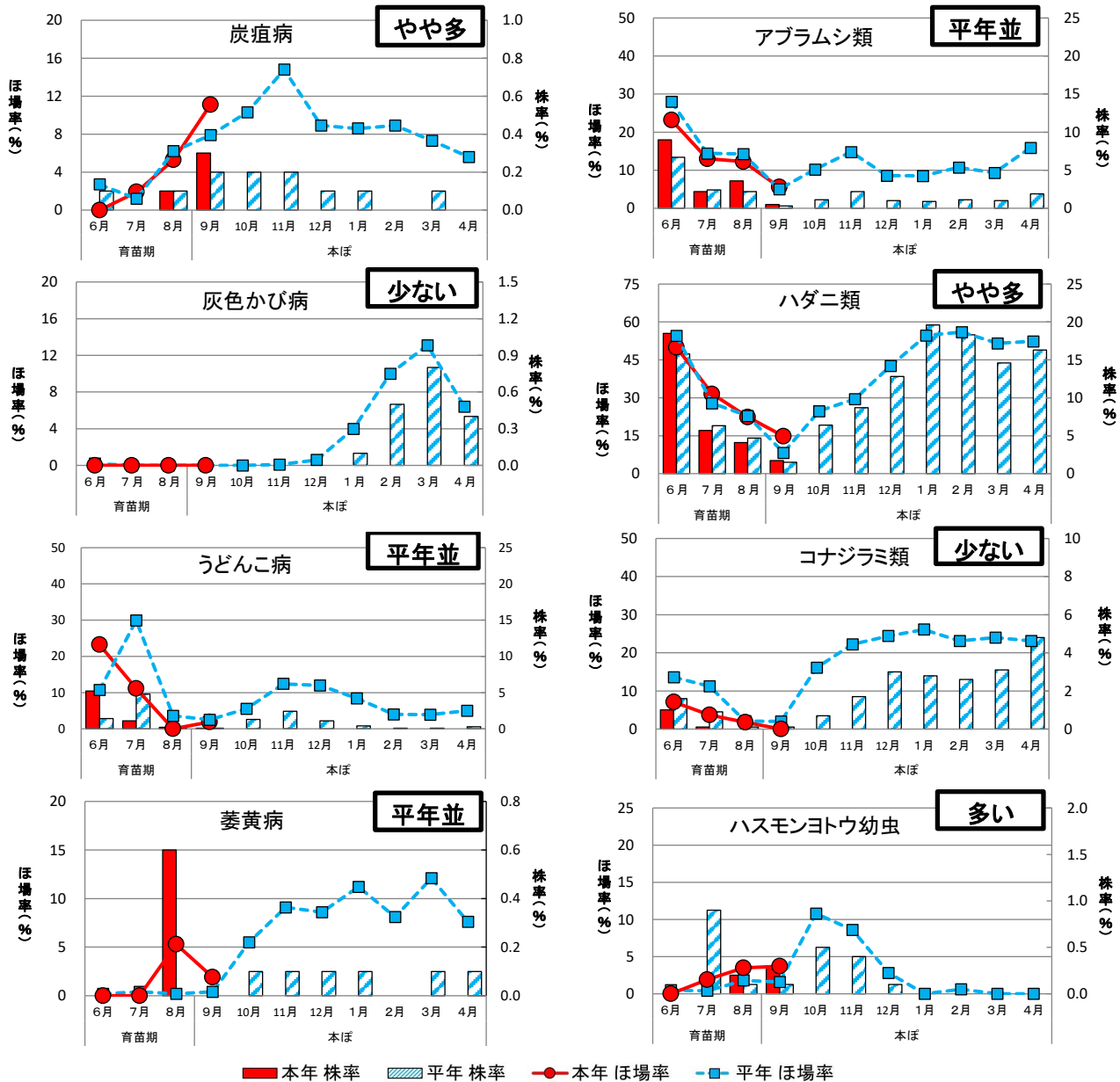


いちご病害虫情報第4号（9月）

令和7（2025）年9月19日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数：54 か所】



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%):発生株数/調査ほ場数×25株 ※ほ場率(%):発生が確認されたほ場数/調査ほ場数

■ 今月の防除ポイント

ー ハスモンヨトウの対策 ー

ハスモンヨトウの発生が多いため、防除対策を徹底しましょう。

- 1 定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。施設のパイプ、ネット等の資材にも産卵するため、それらも注意して観察する。
- 2 施設開口部に4mm目合以下の防虫ネットを展張し、成虫の侵入を防止する。
- 3 ほ場内外の雑草は発生源になるため、除草を徹底する。
- 4 幼虫の齢期が進むと薬剤が効きにくくなるため、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。

■ 今月のトピックス アザミウマ類

主要な種類

アザミウマ類はいちご栽培で重要な害虫です。県内のいちごで最も主要な種はヒラズハナアザミウマ（写真1）です。ミカンキイロアザミウマ（写真2）やハナアザミウマ（写真3）等も発生します。いずれの種も体長は1～2mmで、現場での種の識別は困難です。

アザミウマ類の発生は、花の観察の他、白い紙等の上で花を軽く叩く方法でも確認できます。アザミウマ類が発生していれば、花を叩くと細長く褐色または淡黄色の小さな虫が紙の上に落ちます。



写真1 ヒラズハナアザミウマ

写真2 ミカンキイロアザミウマ

写真3 ハナアザミウマ

生態と被害

アザミウマ類は花や果実に寄生します（写真4）。幼虫に加害されると果実肥大後にそう果（種に見える部分）の周囲を残して表面が褐変し、商品価値が低下します（写真5）。



写真4 花上の成虫



写真5 果実の被害

防除対策

- 野外のアザミウマ類は10月末まで活発に動き回るため、それまでに開花が進んだほ場は侵入されやすい傾向にあります。発生源をなくすため、ほ場内外の除草を徹底しましょう。
- 冬季の発生や被害は、秋にほ場に侵入した個体に由来します。ほ場をよく観察し、11月以降の薬剤防除等により、翌春までの密度を抑制しましょう。なお、天敵を利用する際には、天敵に影響の少ない薬剤を選択しましょう。
- 特に、秋に被害が発生したほ場では、翌春の被害の発生も早いため、2月頃から早期発見・早期防除に努めましょう。
- 詳しい防除対策は[防除のポイント No. 19](#)を、薬剤の選定には[いちごときくに発生したアザミウマ類の薬剤感受性検定結果](#)、[続報](#)を御確認ください。

詳しくは農業総合研究センター環境技術指導部防除課までお問合せください（Tel 028-665-1244）。

病害虫情報発表のお知らせはX「[栃木県農政部](#)」、「[農業総合研究センターホームページ](#)」でもご覧いただけます。

